

令和8年度 幼児教育研修（年齢別担任研修4歳児・第1回）
「子どもの発達と保育者の関わりについて」
～やってみたい興味が広がる保育とは～
日時：令和8年5月28日（木）14：45～16：45
会場：足立区役所 庁舎ホール
講師：（株）学研ココファン学研アカデミー
非常勤講師 日色 智絵 氏



環境を通して行う教育

乳幼児期は、生活の中で興味や欲求に基づいて自ら環境に関わるという直接的な体験を通して、心身が大きく育っていく時期。環境に関わり、充実感や満足感を味わうことで、好奇心や自分から関わろうとする意欲をもって、より主体的に環境と関わるようになる。



日々の経験の積み重ねにより・・・

健全な心身が育まれ、どのように関わって育ったか、将来にわたる発達や人間としての生き方に重要な意味をもつ。

4歳児の保育を考える

- ★個々の興味や関心に応じることのできる**環境構成**が重要。
- ★社会性を育てると共に、子どもの**自己肯定感**や**他者受容の感情**を育ていく。（子どもの気持ちに共感し支えていく）。
- ★乳幼児期の育ちには、「安心」（アタッチメント）と「挑戦」（豊かな遊びと体験）の繰り返しが大切。

自我が発達し、自己主張が盛んになる時期。友達とのトラブルも多くなるが、（成長のプロセス）やり取りを重ねながら、自分の感情をコントロールしたり、相手の主張も受け入れるようになっていく。



その子らしさを損なわず、ありのままを受容する保育者の姿勢により、子ども自身も友達と居る心地良さや友達の良さに気付いていくようになる。友達や好きな遊びが広がる機会も（興味が広がる機会や場）必要。



（「はじめの100か月の育ちビジョン」（2024）：子ども家庭庁）

子どもの姿と保育者の関わり

幼児を理解するまなざし（共同注視的スタンス）

「何に興味をもっているかな？」名もない遊びを見取る。一人一人の興味の違いを踏まえていくことで、必要な環境の再構成につながる。

子どもの見る世界を
共に見るまなざし

横並びのまなざし

佐伯胖（2007）『共感一育ち合う保育のなかでー』ミネルヴァ書房

気を付けて！

見守るとは？

ただ見ているわけではない。幼児が自ら主体的に繰り広げる姿に温かい心を寄せながらも、幼児一人一人の成長の様子を捉える援助のあり方を「見守る」という。

- 遊びの盛り上がり注目がいき、一人一人の興味の違いに寄り添った環境づくりがされていないこともある。

●何気ない一言・・・大人の価値観で関わることの危うさ

例）絵を描く子どもの姿に対して

- ・「○○だとかかわいくないよ」など、自分の表現を否定され、絵を描くことに苦手意識をもった。大人になっても記憶に残っている。
- ・クレヨンを使うことそのものを楽しんでいたところに意味付けをさせてしまった。動きが止まり、描くのをやめてしまった。

やってみたい興味が広がる保育



興味とは？

ある物事に心を惹かれ、面白いと感じることを指す。何かに対して「楽しそうだな」「やってみよう」という気持ちが自然と湧き上がる状態。何かに取り組んでいる時に心が喜び、ワクワクすることが「興味」の本質を指す。



重要なキーワード

子どもが、自分の存在を受け止めてもらえる保育者や友達との安定した関係の中で、自ら環境に関わり、興味関心を広げ、様々な活動や遊びにおいて心を動かされる豊かな体験を重ねることを通して、資質・能力は育まれていく。



子どもの実態を把握する

今、何に興味・関心をもっているのか、どのような願いや思いをもっているのか、何を実現しようとしているのか、何を感じているのか、人との関わり方などの視点をもって把握する。

ポイント

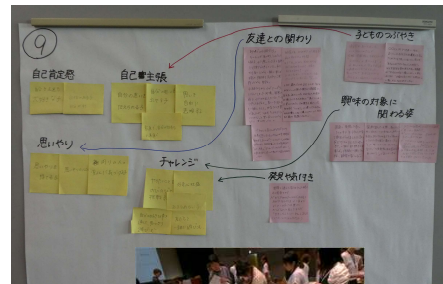
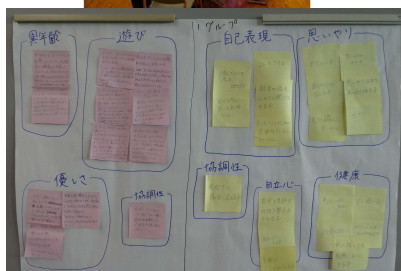
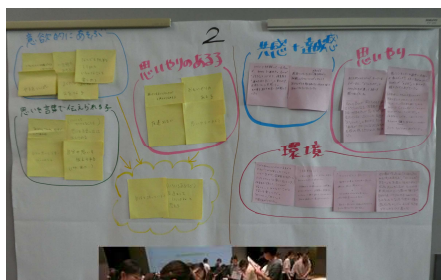
保育者の関わりポイント

- 同じ時期、同じ遊びをしても、一人一人興味、発達の姿には違いがある。保育者の関わりは、その子どもの理解をすることがベースになる。
- 興味に応じた環境の提示
- 興味が広がるような関わりと、場の構成
- 試したことや発見を受け止め、認める。共感する。
- 不思議さに共感する。
- 発見したことを友達に伝えたり、広げたりする場や機会をつくる。



グループで共有しよう(グループワークをしました)

「こんな子どもに育ってほしい(黄色の付箋)」「いいなと思った4歳児の姿や保育者の関わり(ピンクの付箋)」をグループ内で出し合い、内容の近いもの同士を仲間分けし、まとまりごとにタイトルを付けました。出来上がったポスターは、研修生で見学して共有しました。



《ワークの感想》

- ・遊びや流行っていること、遊具の違いがあり、自園だったら・・・と考えながら見ていた。
- ・共有する中で、自己肯定感やチャレンジに関することは出ていたが、協調性に関することは出てこなかった。まず、自分を出せて、楽しい、面白いなど自分表出することが大事だと思った。

● 研修生の報告書より ●

- 4歳児の担任として保育をしてきて、どうしたらいいのか担任同士で悩むことがあった。しかし、研修を受けて大人がどう関わるかが重要だと学んだ。"好きな遊びで満足感を味わえると自信がもてる"という言葉にそうだったのかと納得した。まずは子どもたちの遊びを観察し満足いくまで遊べる環境を整えたいと思う。他園の先生との意見交換もとても楽しく、子どもへの思いが共感できて嬉しかった。それぞれの先生の保育を聞くことができ、自分でも試してみたい。

- 4歳児は心身だけでなく言葉も発達し、色々なことを日々吸収し、興味が広がる年齢であり、子どもたちの興味に合わせた環境設定が大切であると学んだ。子どもたちは今どんなことに興味があるのか普段の保育を振り返り、自由に遊べる素材や用具が身近にあることで、興味が広がることを学んだため、廃材コーナーなどを作ったり、新しいものを取り入れながら環境構成をしようと思う。また、保育者である自分も子どもと同じ目線で色々なものを見て感じるということを経験したい。

【日色先生より】当日出されたテーマでしたが、皆さんが次々と付箋に子どもの姿を書き込んでいく様子に深く感銘を受けました。日頃から子ども一人一人の姿に心を寄せて保育をされていることが伝わってきました。グループディスカッションでも、学びを今後の保育に生かそうとする真摯な姿勢が随所に感じられました。